

# ブックカフェ ～カフェの差別化戦略～

牛嶋 一郎

## 1. はじめに

近年、旧来の喫茶店に留まらない様々な形態のカフェがブームとなっています。そのようなカフェの一形態である「ブックカフェ」を東京都内でも多く目にするようになってきました。本コラムでは、その「ブックカフェ」の概要について紹介します。

## 2. ブックカフェの定義

ブックカフェには明確な定義があるわけではありません。ただ、共通して言えるのは、「本を楽しむための空間と時間を提供するための場」であることです。そのための道具立てとして珈琲やアルコール、スイーツや料理が提供されています。そのため、飲食店としては、喫茶店から居酒屋まで幅広い形態を含んでいるのが実態です。

## 3. ブックカフェの歴史

東京の神田神保町には既に 1990 年代にサロンを併設した古書店（「小宮山書店」）がありましたが、ブックカフェの嚆矢としては 1997 年 7 月に西荻窪で開業した「古本屋&カフェ ハートランド」（2007 年 5 月末閉店）が挙げられます。

その後、下北沢に 2000 年開業の「カフェ・オーディネール」（2011 年に初台に移転後、他オーナーに譲渡）、三鷹市で 2002 年に開業の「フォスフォレッセンス」等、多くのブックカフェの開業が続き、ブックカフェの名称が定着していきます。

## 4. ブックカフェの類型

ブックカフェは、開業の経緯の観点からは大まかに以下の類型に分類できます（図表 1）。

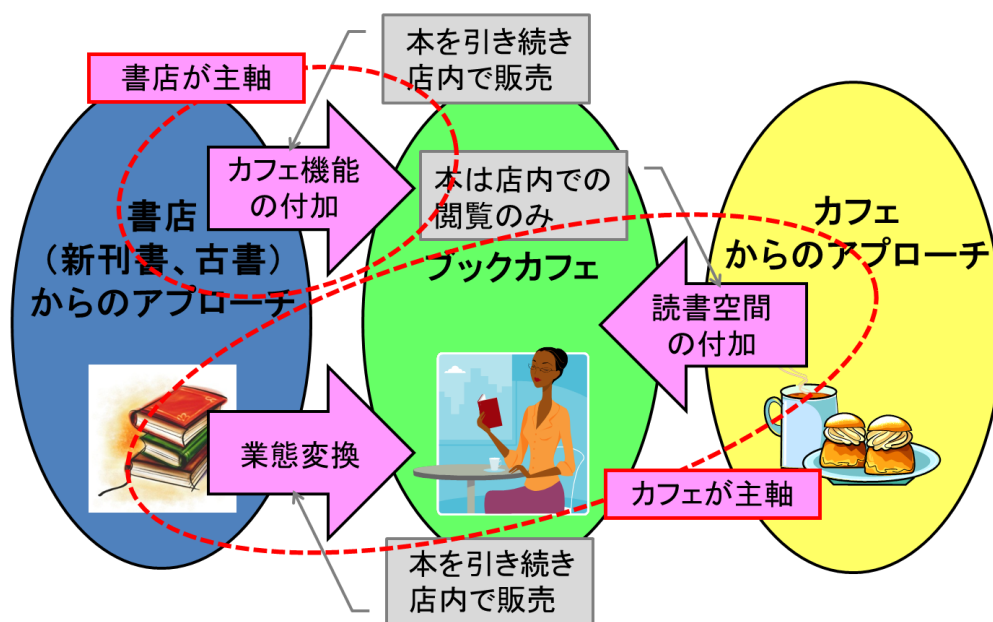
### (1) 書店からのアプローチ

新刊書や古書の書店がブックカフェを開業するケースです。あくまでも書籍販売が主軸で、来店したお客様への付加的サービスとしてカフェを始めたケースと、書籍販売は継続しつつも、業態変換の一環としてカフェを主軸にしたケースがあります。前者の類型については、先に紹介した「古本屋&カフェ ハートランド」や「フォスフォレッセンス」等が該当します。また、後者の類型については、高円寺の古本酒場「 Cocktail 書房」、2013 年に昭島市内の老舗書店が開業した「マルベリーフィールド」等が該当します。

### (2) カフェからのアプローチ

カフェを開業するにあたり、他店との差別化のためにブックカフェの形態を取るケース

です。経営者が書籍に関心が高い場合に見られるアプローチです。書籍の販売は行わず、閲覧が中心となっています。先に紹介した「カフェ・オーディネール」や東向島で劇団主宰の夫妻が経営する「アート&カフェ こぐま」等が本類型に該当します。



図表1. ブックカフェの類型

## 5. ブックカフェに関する考察

### ◆神保町にはブックカフェが少ない

世界有数の古書店街である神田神保町には老舗の喫茶店が多い反面、ブックカフェが少ないのが実態です。これは、「本を楽しむための空間と時間を提供するための場」のニーズは高いものの、書店とカフェの機能分担が確立しているため、と考えられます。

### ◆ブックカフェは東京西部に目立つ

ブックカフェは、下北沢、高円寺、阿佐ヶ谷、西荻窪等東京西部に多いのが実態です。これは、これら地域の文学・サブカルチャー等の個性的な文化を尊重する風土がブックカフェという形態を受け入れ易くしているため、と考えられます。

## 6. おわりに

現在では、ブックカフェという名称も広く定着しました。今後は、さらにどのようなブックカフェが出てくるか、ささやかな期待をこめて本コラムを終わりたいと思います。

(以 上)